

## 私たちは大震災を決して忘れず、持続的、自立的な復興を支え続けます

—東日本大震災から10年を迎えるにあたってのJR連合声明—

一瞬にして2万人近い人命を奪った東日本大震災から10年の歳月が経過しました。あらためてお亡くなりになった方々の御霊に哀悼の意を表するとともに、被災されたすべての方々に対して、心よりお見舞い申し上げます。

月日が経っても、大切な人を失い、生活基盤を破壊された方々の悲しみが癒えることはありません。私たちは、被災された方々に寄り添い、思いを馳せて、できる限りの助け合い、支え合いの活動を進めてきました。

JR連合は大震災の発生後、救援物資の輸送や緊急支援カンパ、連合被災地救援ボランティアに積極的に参加するなど、全組合員の総力を挙げた被災地の支援に取り組んできました。また、BRT化された区間を除き最後まで不通となっていた常磐線（富岡～浪江間）が昨年3月に再開するなど、被災したJRの路線の復旧も進みました。このほか、公益財団法人オイスカが主催する宮城県名取市の「海岸林再生プロジェクト」にも積極的に参加し、現在も組合員と家族によるボランティア活動を展開しているところです。

10年の間に復興は確実に前進しているものの、未曾有の災禍による傷跡はきわめて深く、ソフト面、ハード面ともに課題が多く残っています。被災者、被災地の立場から、真の生活再建や地方創生につながる持続的、自立的な復興を実感できるよう取り組む必要があると考えます。また、各地で毎年のように発生し、今後も想定される地震や水害など大規模な自然災害に対して、大震災の教訓を徹底して生かし、危機管理能力を高め、防災、減災の対策を強化することが求められます。さらに、人類が直面する新型コロナウイルス感染症への対策においても、大震災の教訓に学び、難局を克服し、次なる危機にも備え、新たな社会づくりにつなげていかなければなりません。

私たちは東日本大震災を決して忘れず、風化させることなく、今後も被災者、被災地に寄り添った助け合い、支え合いの活動を継続していくとともに、大震災で得られた教訓を生かし、わが国の社会、生活を支える安全な鉄道サービスを提供し、持続的、自立的な復興を支え続ける決意を改めて表明いたします。

2021年3月11日

日本鉄道労働組合連合会（JR連合）